人はなぜ学ぶのか　１０
～なぜ勉強・学習しないといけないのか～

敷津小学校　原　雅史

「人はなぜ学ぶのか」その答えとして、「幸せをみつけるため」「世の中には色々な幸せがあり、どんな幸せが自分に向いているのかをさがすために学ぶ」ということを昨日お話ししました。

そしてもう一つの答えの前に少しお話しをさせてください。今から１５年前、校長先生は新潟県のある学校に出張に行きまして、そのときに見た授業の風景を今も忘れらることができません。どんな授業だったのかと言いますと、６年生の算数なのですが、分数÷分数という非常に難しい単元の授業でした。校長先生が行ったときは、ちょうどその単元の初めての授業でしたが、そこのクラスの担任の先生は「今日は新しい単元です。分数÷分数の勉強をします。ではこの問題からやってみましょう。」と言って、１時間目なのにいきなり難しい問題を出されたのです。

「問題１。3/4 ㎡のへいをぬるのに、赤いペンキを３ dL 使います。このペンキは、1 dL 当たり何㎡ぬれるでしょうか？」子どもたちは「えー！こんなんわかりません。」と言いながらも、何とか周りの子と相談したり、図を描いたりしながら、１５分ぐらいで全員正解にたどりついていました。

「問題２。 2/5 ㎡のへいをぬるのに、青いペンキを3/4 dL 使います。このペンキは、１ dL 当たり何㎡ぬれるでしょうか？」

この問題は、普通はこの単元の勉強を行って、５時間目か６時間目ぐらいにするものを、この先生はいきなり１時間目に出されました。

当然、クラスのあちらこちらで「わかりません。」の大合唱です。でもそんなときでも先生は動じず、回りの人と聞き合ってみてください。というだけで、教室の隅で、子どもたちの様子をニコニコして見守るだけです。いつもそんな感じなのでしょう。子どもたちも、先生に頼るのをあきらめて、班の中でコソコソ聞き合いをはじめていきました。

A君　「（４分の３だから）４個にわけるじゃん。」
Bさん「え？わからない」
Cさん「４等分じゃないの？」
A君　「だから、まず４等分します。…　それだと÷４じゃん。」
Bさん「え？え？」
A君　「４等分するじゃん、それだとまだ÷４じゃん」
Cさん「４分の３等分しなきゃなのに、４等分しかしていないから。」

A君　「４等分しかやっていない。で４つに分けて、それをさらに３個分だから、これじゃないの？」

Cさん「えっ？」

A君　「まず、４個分にわけるじゃん。これじゃまだ÷４じゃん。４等分だからわかるよね。」

D君　「うん。（うなずく）」

A君　「４分の３ってことは、この４個分に分けたうちの３つってことでしょ。だからさ、ここなんじゃないの？（ノートをゆびさす）

いかがでしょう？みなさんが受けて来られた授業と同じようなところもありますか。それとも全然違いますか。すごく難しい問題なのですが、でもなんかできそうでできない。一人で考えてもわからないから、班のみんなと相談したり、聞き合ったりして、みんなでわかり合っていく…。どの子もすごく真剣に友だちの話を聞いて、自分の考えとくらべたり、この子こんな考え方だったんだと驚いたり、自信はないけれど班の中なので、自分の考えを出してみたり…。子ども同士がとても仲良く学び合っていた算数の授業でした。

（続きはまた次回にお話します）